

神奈川県における縄文時代文化の変遷Ⅸ

－後期中葉期 加曽利B式土器文化期の様相 その1－

縄文時代研究プロジェクトチーム

1. はじめに

昨年度までの縄文時代後期前葉堀之内式土器文化期をめぐる研究につづき、後期中葉の加曽利B式土器文化期（加曽利B式期）の様相を検討する。今回は、当該期の遺構が発見された主要遺跡の集成を行った。

昨今では、神奈川県西部を中心に新東名建設やこれに付随した道路建設事業などに伴う発掘調査が行われ、該期の発見例が相次いだ。神奈川県域の東部にて東京湾に面する貝塚を営む拠点的な集落が継続し、西部では、山地に沿って後期前葉以来の大規模な配石遺構を伴う拠点的集落の存在が明らかになりつつある。該期の新たな様相として、遺物では、堀之内式期に組成にくわわる注口土器とともに、大型波状口縁深鉢などの多様な器形をもつ精製土器、紐線文を中心とする粗製土器が安定的に確認できるようになる。また、特定の用途もつ小型土器や異形台付土器の発生、土偶や小型石棒など多様な土製品、石製品が確認できるのもこの時期以降の特徴である。

後期中葉は、神奈川県を含む関東地方南西部にて遺跡減少が決定的となる後期後葉への過渡期にあたる。これに対し東京湾の東岸一帯や霞ヶ浦沿岸では、大規模な貝塚が後期前葉から後期中葉にかけ継続して営まれ、大宮台地以東では、環状盛土遺構が形成される時期でもある。

遺跡数では、後期初頭から前葉にかけてひとつのピークをむかえ、後期中葉以降に減少に転じる。後期中葉、加曽利B式期の遺構が発見された主要遺跡は、狭い範囲にとどまる調査事例を除きいずれも後期前葉から継続する遺跡であった。後期中葉のなかでも加曽利B 1式期の遺跡や遺構が圧倒的に多く、時期が下るにしたがいその数を急激に減少させる。住居跡が発見された40遺跡のうち加曽利B 2式以降に下る可能性があるのは9遺跡のみで、さらに加曽利B 3式期以降となると、華蔵台遺跡や川尻遺跡、平沢同明遺跡、稻荷木遺跡などの少数の特定の集落に限られる。このような傾向は関東地方西部から甲信地域に共通するものであるが（新津1992）、一方、関東地方東部、千葉県域などでは、堀之内2式期や加曽利B 1式期に減少するものの加曽利B 2式期以降に増加に転じるという（菅谷1995）。

今回、報告書を中心とした文献から加曽利B式期の遺跡に関する情報を抽出し、集成したデータのうち遺構を有する集落遺跡を中心とした主要遺跡について、神奈川県内におけるこの時期の遺構が発見された主要遺跡を地名表、参考文献としてまとめて掲載している（表中の「？」は当該期遺構の可能性のあるもの）。次年度以降、これまでにならい、住居址出土一括資料を中心とした土器の比較、検討を行い、土器編年試案の構築をめざす。さらに竪穴住居址、敷石住居址についての検討や、これ以外の遺構や集落構造、遺跡分布の検討、土器以外の土製品や石器、石製品などの遺物に関する検討をくわえる予定である。

2. 研究略史

当該期の範囲は、山内清男によって設定された後期中葉の加曽利B式土器文化期における神奈川県内の遺

跡に限定する。

加曽利B式土器に関する研究について簡単にふれておくと、そのはじまりは1920年代にさかのぼる。加曽利B式土器は、山内清男が1924年の千葉県加曽利B地点貝塚出土土器をもとに、1928年の千葉県上本郷貝塚の発掘調査をふまえて設定された（八幡1924、山内1928）。このうち1930年に調査された埼玉県真福寺貝塚、1931年調査の茨城県広畠貝塚、1932年の千葉県遠部台遺跡の調査による曾谷式の認識を経て加曽利B式の範囲が示されることとなる（山内1937）。さらに『日本先史土器図譜第III・IV輯』の写真と解説により「古い部分、中位の古さ、新しい部分」としてのちに加曽利B 1、B 2、B 3式とされる細別概念が明示される（山内1939 a・b）。

関東地方を中心に進められた加曽利B式研究は、1970～80年代、我孫子昭二、鈴木正博、大塚達朗の三者の議論により主として展開される（我孫子1971、1981、1988・1989、1998、鈴木編1979、1980 a・b、1981、2003、大塚1983、1984、1986、1990、1992、1996）。これにつづく1990年代以降、縄文セミナーの会を中心に事例集成が行われ、地域研究、地域毎の特色抽出が活発となる（縄文セミナーの会1996、2015）。

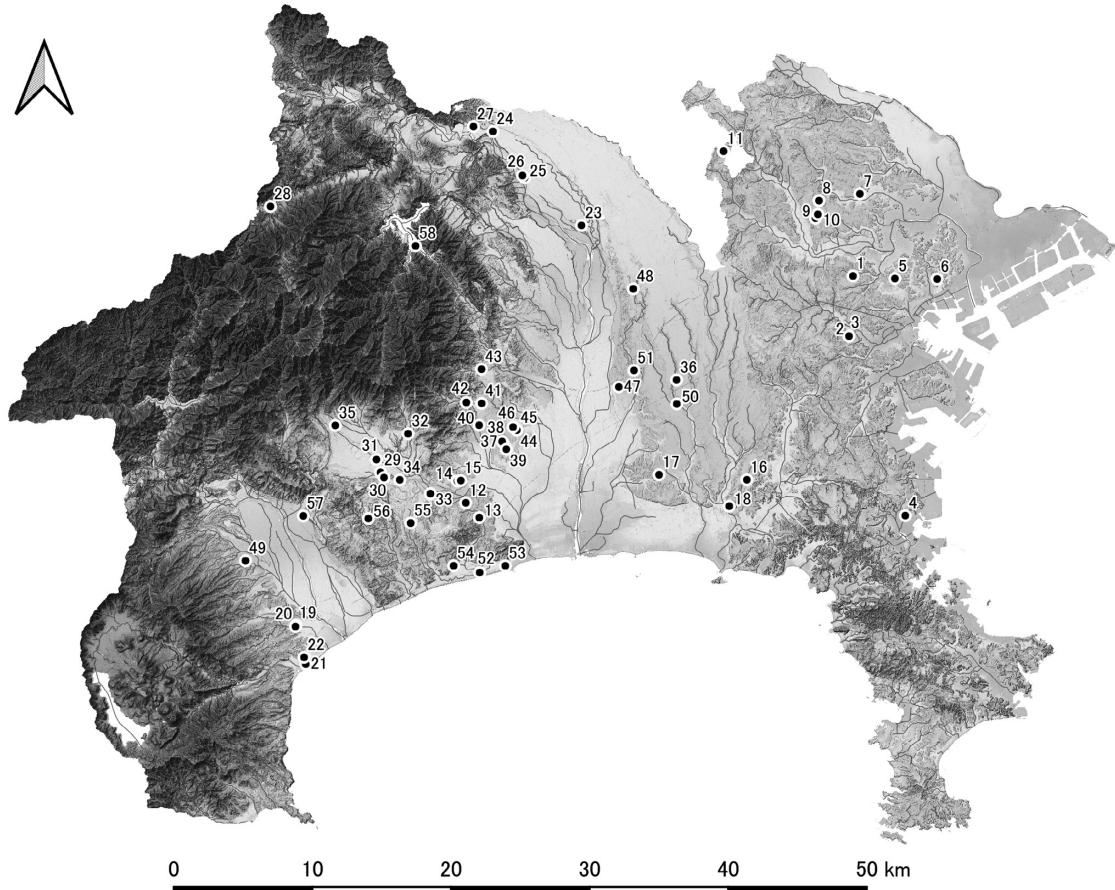
近年では、國學院大學提出論文をまとめた新屋雅明（新屋2015）、加曽利B 1式について層位的出土状況の分析に基づき3細別を行った吉岡卓真（吉岡2013）、東関東の加曽利B式土器の器種と文様帶構成の関係性を整理し、変遷を考察した阿部芳郎（阿部2018）、ソロバン玉状鉢形土器について再整理し、加曽利B 2式の変遷を6段階から7段階に細分した大塚達朗（大塚2018）、千葉県矢作貝塚出土資料の型式学的検討を行い加曽利B 1、2式の精製土器、粗製土器の要素をもつ土器を検討し土器制作システムをあつかう別所鮎実（別所2019 a・b）などがあげられる。

（阿部）

参考文献

- 八幡一郎 1924 「千葉県加曽利貝塚の発掘」『人類学雑誌』39巻4・5・6号
 山内清男 1928 「下総上本郷貝塚」『人類学雑誌』43号10号
 山内清男 1937 「縄紋土器型式の細別と大別」『先史考古学』1巻1号
 山内清男 1939 a (再版1967) 「加曽利B式 (古い部分・図版20~29)」『日本先史土器図譜 第III輯』先史考古学会
 山内清男 1939 b (再版1967) 「加曽利B式 (中位の古さ・図版30~39)」『日本先史土器図譜 第IV輯』先史考古学会
 我孫子昭二 1971 「加曽利B式土器の変遷」『平尾遺跡調査報告』平尾遺跡調査会
 我孫子昭二 1981 「縄文後期の土器 関東・中部地方」『縄文土器大成3 後期』講談社
 我孫子昭二 1978 「縄文式土器の型式と編年」『日本考古学を学ぶ1』有斐閣
 鈴木正博・鈴木加津子編 1979 「取手と先史文化—中妻貝塚の研究—上巻」取手市教育委員会
 鈴木正博 1980 a 「大森貝塚の土器・石器など」『大田区史 (資料編) 考古II』大田区教育委員会
 鈴木正博 1980 b 「曾谷式」研究序説『古代探叢』早稲田大学出版部
 鈴木正博 1981 『遺物特論II—『加曽利B式 (古)』研究序説—』『取手と先史文化 下巻』取手市教育委員会
 大塚達朗 1983 「縄文時代後期加曽利B式土器の研究 (I)」『東京大学考古学研究室研究紀要』2 東京大学文学部
 大塚達朗 1984 「寿能泥炭層遺跡出土加曽利B式土器の様相」『寿能泥炭層遺跡発掘調査報告 人工遺物・総括編』埼玉県教育委員会
 大塚達朗 1986 「型式学的方法—加曽利B式土器」『季刊考古学』17
 我孫子昭二 1988・1989 「加曽利B式土器の変遷と年代 (上)・(下)」『東京考古』第6・7号
 大塚達朗 1989 「加曽利B式三細別に於ける齟齬の解消」『先史考古学研究』2
 大塚達朗 1990 「失われた書物を求めて (1) ~加曽利B式研究から見た昭和考古学~」『利根川』11
 大塚達朗 1992 「失われた書物を求めて (2) ~加曽利B式研究から見た昭和考古学~」『利根川』13
 新津 健 1992 「縄文晩期集落の構成と動態—八ヶ岳南麓・金生遺跡を中心に—」『縄文時代』第3号
 秋田かな子 1994 「加曽利B 1式注口土器の成立 (予察) —王子ノ台遺跡出土の注口土器から—」『東海大学校地内遺跡調査報告』4
 菅谷通保 1995 「堅穴住居から見た縄文時代後・晩期一房総半島東部 (北総地域) を中心とした変化について」『帝京大学山梨文化財研究所研究報告』第6集

- 大塚達朗 1996 「加曾利B式土器」『日本土器辞典』雄山閣
- 縄文セミナーの会 1996 『第9回縄文セミナー 後期中葉の諸様相 資料』
- 秋田かな子 1998 「加曾利B 1式土器の構造変化とシステム—南関東西部における様相をふまえて—」『東海史学』第32号
- 我孫子昭二 1998 「加曾利B式土器資料」『山内清男考古資料9—縄文後期加曾利B式・中国地方の陶棺・下総国分寺・尼寺資料』奈良国立文化財研究所
- 秋田かな子 1999 a 「注口土器の系統変化」『季刊考古学』第69号
- 秋田かな子 1999 b 「関東地方後期（加曾利B式・曾谷式）」『縄文時代』10号1分冊
- 菅谷通保 1999 「加曾利B 3式の考え方—東関東からの視点」『土曜考古』23号
- 阿部芳郎 2001 「遠部第3類土器の系譜と変遷—加曾利B 2式期における大形貯蔵用土器の成立背景に関する基礎的考察—」『縄文時代』12号
- 秋田かな子 2002 「加曾利B 2式鉢形土器の性質—型式内位置にみる諸現象から—」『日々の考古学』東海大学考古学教室開設20周年記念論文集編集員会
- 鈴木正博 2003 「吉見台から遠部台へ—地域研究の進展によって姿を現した日本先史土器の新たな段階—」『新世紀の考古学—大塚初重先生喜寿記念論文集—』大塚初重先生喜寿記念論文集刊行会
- 吉岡卓真 2013 「加曾利B 1式土器の細別と文様構成の成り立ち・鉢形土器・浅鉢形土器の分析を中心に—」『駿台史学』148
- 新屋雅明 2015 『縄文時代後・晩期土器編年の研究—加曾利B式～安行式土器群の変遷』六一書房
- 縄文セミナーの会 2015 『第28回縄文セミナー 縄文後期注口土器の諸様相』
- 阿部芳郎 2018 「加曾利B式土器の変遷と器種構造—文様帶構成からみた系統と連続性—」『考古学集刊』14
- 大塚達朗 2018 「縄文時代後期加曾利B式土器の研究（II）（III）—加曾利B 2式の理解のために—」『南山大学人類学博物館紀要』36・37
- 別所鮎実 2019 a 「助川資料」における千葉県矢作貝塚出土土器』『考古学集刊』15
- 別所鮎実 2019 b 「縄文時代後期中葉における器種間関係からみた土器製作—関東地方東西地域を対象に—」『駿台史学』165



神奈川県内 後期加曽利B式期主要遺跡地名表

遺跡No.	遺跡名	所在地	住居	配石	墓	土坑	貝塚	その他	文献No.
横浜市神奈川区									
1	平台北遺跡群	菅田町字川向2975-23外	○						14
横浜市保土ヶ谷区									
2	仏向貝塚	仏向町845-1他				○?			53
3	仏向遺跡	仏向町845-1他					○土器集中		53
横浜市金沢区									
4	称名寺D貝塚第3地点	金沢町153-9	○	○	○				60
横浜市港北区									
5	篠原大原北遺跡	篠原町73-2外	○		○				44
6	篠原大原遺跡	篠原町72-2	○						41
横浜市都筑区									
7	西ノ谷貝塚	南山田二丁目17付近				○			38
8	華藏台遺跡	荏田南5丁目10	○	○	○		○掘立柱建物		46
9	三の丸遺跡	見花山1	○		○		○長方形柱穴列		11
10	小丸遺跡	大丸11付近	○		○		○掘立柱建物		26
川崎市麻生区									
11	岡上丸山遺跡	岡上675-1		○					16
平塚市									
12	原口遺跡	上吉沢1,617番地外	○	○			○埋設土器		35
13	内ムクリB遺跡	上吉沢地内	○						1
14	王子ノ台遺跡	東海大学構内	○		○				17・22
15	真田・北金目遺跡群15D区	北金目字入谷戸1523-3外					○水場遺構?		40
鎌倉市									
16	東正院遺跡	関谷東正院	○		○?				4
藤沢市									
17	遠藤貝塚（西部217地点）	遠藤及び茅ヶ崎市堤79-4	○?			○?			21
18	西富貝塚	西富字光徳竹之下	○			○			2
小田原市									
19	久野北久保遺跡第II地点	久野1184番地ほか					○柱穴群		39
20	久野北久保遺跡第IV地点	久野1179番地					○柱穴群		39
21	御組長屋遺跡第II地点	南町地内	○	○			○柱穴群・石垣状積石		33
22	天神山遺跡第III地点	南町1丁目861番地39他		○			○礫石器集合遺構		58
相模原市									
23	当麻亀形遺跡	南区当麻字亀形526-1外	○		○		○堅穴状遺構		34
24	川尻石器時代遺跡	緑区谷ヶ原二丁目777外	○		○	○			59
25	古清水遺跡	緑区大島字古清水2434-1外	○		○				45
26	大島古清水遺跡第2地点	緑区大島字古清水2469-3外	○	○			○列状配石遺構・石積遺構		61
27	畠久保西遺跡	緑区城山四丁目地先		○					56
28	青根馬渡No.2遺跡	緑区青根字馬渡1676-1他	○						29
秦野市									
29	同明遺跡	平沢1168ほか			○				9
30	平沢同明遺跡 2004 - 05地点	平沢字同明1179番2他	○			○			50
31	曾屋吹上遺跡	曾屋字淨屋682番	○						36
32	寺山遺跡 9504地点	寺山512ほか			○	○			54
33	中里遺跡	上大槻字芦沢509-1他	○	○					25
34	太岳院遺跡 2006 - 02地点	今泉字堀之内391番ほか	○		○		○ピット		52
35	稻荷木遺跡第2次	戸川1196-1外	○	○	○	○			62
大和市									
36	大和市No.100遺跡	福田1780-1外	○						30
伊勢原市									
37	八幡台遺跡	東大竹	○						8
38	東大竹・山王塚（八幡台）遺跡	東大竹字山王塚1370-3	○		○		○掘立柱建物		20
39	東大竹・下谷戸（八幡台）遺跡	東大竹1376番地	○	○		○			48
40	三ノ宮・前畠遺跡	三ノ宮1505番地	○		○				37
41	三ノ宮・下谷戸遺跡（No.14）	三ノ宮字下谷戸1,100他	○	○	○	○			32
42	子易・大坪遺跡	子易字大坪					○屋外埋設土器		55
43	下北原遺跡	日向字下北原1272番2外	○	○	○		○屋外埋設土器・土器集中		7・47・57
44	沼目・坂戸遺跡	池端字椿山241-14他	○	○		○			28
45	池端・椿山遺跡	池端242他					○ピット		42
46	池端・金山遺跡	伊勢原1丁目131番地1他	○		○	○			43・51
海老名市									
47	杉久保遺跡	杉久保字中原・富谷	○		○				12・13
座間市									
48	間の原遺跡	栗原1927	○?						18

南足柄市								
49	馬場遺跡	狩野452番地		○			○配石・組石遺構等?	3
綾瀬市								
50	上土棚南遺跡	上土棚南	○	○			○掘立柱建物	49・31
51	宮久保遺跡	早川字新堀淵					○水場遺構?	15
中郡大磯町								
52	城山遺跡	西小磯	○?					10
53	大磯小学校遺跡	東小磯3番地		○			○炉址	6
54	石神台遺跡	石神台		○	○	○	○ピット・土器廃棄場	19
足柄上郡中井町								
55	井之口平治山遺跡	大字井ノ口字平治山					○堅穴状遺構	24
56	松本大久保台遺跡	大字松本字大久保台			○			27
足柄上郡大井町								
57	金子台遺跡	大字金子字滝坂上32他		○				5
愛甲郡清川村								
58	馬場(No. 6)遺跡	愛甲郡清川村	○	○	○			23

文献目録（文献No. は表中文献No. と一致）

1. 江坂輝弥他 1964 「平塚市上吉沢敷石遺跡調査」『平塚市文化財調査報告書第五集』平塚市教育委員会
2. 服部清道・寺田兼方 1964 『藤沢市文化財調査報告書 第一集』藤沢市教育委員会
3. 杉山博久・神沢勇一 1969 『馬場遺跡の縄文時代配石遺構』富士写真フィルム株式会社
4. 鈴木保彦 1972 『東正院遺跡調査報告』神奈川県教育委員会・東正院遺跡調査団
5. 赤星直忠・神沢勇一 1974 『神奈川県金子台遺跡』横須賀考古学会研究調査報告3、横須賀考古学会
6. 鈴木一男・池田彦三郎 1976 『大磯小学校遺跡』大磯町埋蔵文化財発掘調査報告書第1集、大磯町教育委員会
7. 鈴木保彦・大上周三 1977 『下北原遺跡』神奈川県立埋蔵文化財調査報告14、神奈川県教育委員会
8. 江藤昭・神尾明正・杉山博久 1979 『八幡台遺跡』伊勢原市八幡台遺跡調査団、伊勢原市八幡台遺跡調査団
9. 杉山博久・山本守男ほか 1982 『同明遺跡』秦野市教育委員会
10. 鈴木一男ほか 1982 『城山・北ノ端・中堰・坊地』大磯町教育委員会
11. 伊藤郭・今井康博ほか 1983 『三の丸遺跡発掘調査報告書』横浜市文化財シリーズ57-1、横浜市埋蔵文化財調査委員会・横浜市教育委員会
12. 河野一也ほか 1983 『杉久保遺跡』『日本窯業史研究所年報II』日本窯業史研究所
13. 河野一也ほか 1984 『杉久保遺跡』『日本窯業史研究所年報III』日本窯業史研究所
14. 戸田哲也・田村良照・麻生順司 1984 『横浜市菅田町 平台北遺跡群発掘調査報告書』横浜市東部方面高校建設予定地内遺跡発掘調査団・玉川文化財研究所
15. 御堂島正・長岡史紀 1987 『宮久保遺跡I』神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告15、神奈川県立埋蔵文化財センター
16. 竹石健二・澤田大多郎・野中和夫 1990 『神奈川県川崎市麻生区 岡上丸山遺跡発掘調査報告書 本文編』川崎市教育委員会社会教育部文化課・川崎市教育委員会
17. 常木晃ほか 1991 『東海大学校地内遺跡調査団報告2』東海大学校地内遺跡調査団
18. 浅野 寛ほか 1992 『間の原遺跡』座間市教育委員会・間の原遺跡発掘調査団
19. 鈴木一男 1992 『石神台遺跡』大磯町文化財調査報告書第35集、大磯町教育委員会
20. 高橋勝広 1992 『文化財ノート 第2集』東大竹・山王塚(八幡台) 遺跡発掘調査団・伊勢原市教育委員会
21. 寺田兼方・澤田大多郎 1993 『遠藤貝塚(西部217地点)』藤沢市西部開発事務局・藤沢市西部開発地域内埋蔵文化財発掘調査団
22. 秋田かな子ほか 1995 『東海大学校地内遺跡調査団報告5』東海大学校地内遺跡調査委員会・東海大学校地内遺跡調査団
23. 鈴木次郎・近野正幸 1995 『宮ヶ瀬遺跡群V 馬場(No. 6)遺跡』かながわ考古学財団調査報告4、財団法人 かながわ考古学財団
24. 杉山博久・井辺一徳 1996 『井ノ口平治山遺跡』グリーンテクノなかい埋蔵文化財発掘調査団
25. 村上吉正・吉垣俊一・谷口 肇 1997 『中里遺跡(No. 31) 西大竹上原遺跡(No. 32)』かながわ考古学財団調査報告30、財団法人 かながわ考古学財団
26. 石井寛ほか 1999 『小丸遺跡』港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告25、財団法人 横浜市ふるさと歴史財団
27. 高杉博章 1999 『松本大久保台遺跡』松本大久保台遺跡調査団
28. 戸田哲也・福田良・中山豊 1999 『布目・坂戸遺跡 第II地点 発掘調査報告書』布目・坂戸(II) 遺跡発掘調査団
29. 平野裕久・池田治ほか 1999 『道志導水路関連遺跡』かながわ考古学財団調査報告59、財団法人 かながわ考古学財団
30. 有馬多恵子ほか 2000 『大和市渋谷(南部地区) 土地区画整理事業地内遺跡-第1地点(大和市No.100遺跡)・第2地点

（中ノ原C地点）の発掘報告』株式会社盤古堂

31. 市川正史・井関文明2000『上土棚南遺跡 第4次調査』かながわ考古学財団調査報告 109、財団法人かながわ考古学財団
32. 宮戸信悟・宮坂淳一ほか2000『三ノ宮・下谷戸遺跡（No.14）II』かながわ考古学財団調査報告 76、財団法人かながわ考古学財団
33. 小林義典・小山裕之ほか2001『御組長屋遺跡 第I・II・III・IV地点 発掘調査報告書』都市計画道路小田原早川線改良工事遺跡発掘調査団
34. 大坪宣雄・長澤邦夫ほか2002『当麻亀形遺跡』相模原市教育委員会
35. 長岡文紀2002『原口遺跡III 縄文時代』かながわ考古学財団調査報告 134、財団法人かながわ考古学財団
36. 霜出俊浩・北原實徳・今泉克己2002『曾屋吹上遺跡－200102地点』曾屋吹上遺跡発掘調査団
37. 戸田哲也・諏訪間伸2002『三ノ宮・前畠遺跡発掘調査報告書』玉川文化財研究所・伊勢原市教育委員会
38. 坂本彰ほか2003『西ノ谷貝塚』港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告33、財団法人横浜市ふるさと歴史財団
39. 小林義典2003『久野北側下遺跡第I地点 久野北側上遺跡第I地点 久野北久保遺跡第II・IV地点』小田原市文化財調査報告書 第114集、小田原市教育委員会
40. 若林勝司ほか2003『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書4』平塚市真田・北金目遺跡調査会
41. 天野健一・宮井香2004『篠原大原遺跡』かながわ考古学財団調査報告175、財団法人かながわ考古学財団
42. 小川岳人・井辺一徳2004『池端・椿山遺跡』かながわ考古学財団調査報告165、財団法人かながわ考古学財団
43. 岩崎祥・白崎智隆2007『神奈川県伊勢原市 池端・金山遺跡』埋蔵文化財発掘調査支援協同組合・株式会社パラモド埋蔵文化財発掘調査支援協同組合
44. 山田仁和ほか2007『横浜市港北区篠原大原北遺跡』吾妻考古学研究所
45. 水澤文志・内田 仁2007『古清水遺跡 第1次発掘調査報告書』加藤建設株式会社
46. 石井 寛2008『華蔵台遺跡』港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告41、財団法人横浜市ふるさと歴史財団
47. 大塚健一・小西絵美2008『下北原遺跡II』かながわ考古学財団調査報告222、公益財団法人かながわ考古学財団
48. 坪田弘子・佐々木竜郎2008『東大竹・下谷戸（八幡台）遺跡発掘調査報告書』玉川文化財研究所
49. 矢島國雄・小滝勉ほか2008『上土棚南遺跡 第5次～第7次調査の記録』綾瀬市埋蔵文化財調査報告6、綾瀬市教育委員会
50. 戸田哲也・霜出俊浩ほか2010『平沢同明遺跡発掘調査報告書（2004-04地点・2004-05地点）』玉川文化財研究所・秦野市教育委員会
51. 渡辺務・新井潔2010『神奈川県伊勢原市 池端・金山遺跡第2地点』日本窯業史研究所
52. 戸田哲也・霜出俊浩ほか2011『太岳院遺跡2006-02地点発掘調査報告書』玉川文化財研究所・秦野市教育委員会
53. 阿部友寿・小川岳人2012『仏向貝塚・仏向遺跡・仏向町遺跡』かながわ考古学財団調査報告279、財団法人かながわ考古学財団
54. 霜出俊浩・佐々木竜郎・小森明美2012『堂坂遺跡 9204地点・9308地点・9401地点・2001-04地点・2001-06地点 寺山遺跡 9504地点 寺山金目原遺跡 9608地点・9701地点・9804地点・9904地点 平沢同明遺跡 9301地点』玉川文化財研究所・秦野市教育委員会
55. 三瓶裕司・大塚健一ほか2013『子易・大坪遺跡・子易・町屋裏遺跡』かながわ考古学財団調査報告292、公益財団法人かながわ考古学財団
56. 井辺一徳・相良英樹ほか2014『畠久保西遺跡』かながわ考古学財団調査報告302、財団法人かながわ考古学財団
57. 佐々木竜郎・小森明美ほか2014『下北原遺跡III』神奈川県立埋蔵文化財発掘調査報告書27、玉川文化財研究所
58. 佐々木竜郎・中山豊ほか2016『天神山遺跡 第3地点 発掘調査報告書』玉川文化財研究所
59. 河本雅人ほか2017『川尻石器時代遺跡総括報告書』相模原市埋蔵文化財調査報告53、相模原市教育委員会
60. 降矢順子・齋木秀雄2019『称名寺D貝塚第3地点発掘調査報告書』株式会社齊藤建設
61. 三澤壮太2020『大島古清水遺跡 第2地点』株式会社イビソク
62. 天野賢一2021『稻荷木遺跡・戸川諏訪丸遺跡』『年報27 令和元（平成31）年度』公益財団法人かながわ考古学財団